

## 巻 頭 言

ウェブジャーナル編集委員長

谷口 吉光

(地域連携・研究推進センター教授)

「秋田県立大学ウェブジャーナルA（地域貢献部門）」は、本学教員の多彩な地域貢献活動を社会に広く発信するという目的で2014年3月に創刊され、毎年1冊ずつ刊行を重ねて、今号で第6号となった。ほかの大学で刊行されている紀要や地域貢献報告書などと本学のウェブジャーナルは次の点で違いがある。

第一に、教員の地域貢献活動の報告に的を絞っている点である。このようなジャーナルの刊行を提案されたのは前小間篤学長であるが、前学長は本学に着任されてから、地域貢献活動に自発的かつ熱心に取り組んでいる教員が多いことに気づき、こうした教員の活動をインターネットを通して社会に発信することを考えつかれた。私は創刊号から編集委員長を仰せつかってきたが、確かに本学の同僚たちは多種多様な地域貢献活動に、それも自ら進んで関わっている。多くの大学では教員がアカデミズムの研究活動に閉じこもる傾向があり、地域貢献は上司から言われてやるだけという話を聞くが、本学ではそれとは真逆の学風が確立されている。地方の公立大学として、これは誇るべき特徴とっていいと思う。

第二に、本ジャーナルは単なる「地域貢献の活動報告集」ではない。原稿は編集委員会が教員に依頼して書いてもらうのではなく、毎年学内で投稿を公募し、自発的に投稿された論文を掲載している。論文の種類は「応用研究論文」という1種類で、これは「地域に貢献できる教育・研究の成果や取り組みに関する報告で、できればその意義について何らかの理論的考察があるもの」と定義している。学会誌のような査読はしないが、編集委員がすべての原稿を読んで簡単な内容と体裁の確認（チェックと呼んでいる）をし、著者にコメントを返して必要なら修正を求めるといった作業をしている。

こうした形にしているのは、「本学の教職員の活動を論文の形で整理して記録し、教職員各自の実績として目に見える形にする」という創刊当時の方針に基づいている。現在のアカデミズムは学術研究を高く評価する半面、研究者による地域貢献活動の価値を評価しない傾向があるため、地域貢献活動をしてもその成果を発表する場（メディア）がないという弊害を生じているが、本ジャーナルはささやかながら、学会誌に準じる形で、地域貢献活動を公表できる場を提供し続けている。

これまで掲載された論文の大半が数百オーダーのダウンロード回数を記録しており、なかには1000回以上ダウンロードされた論文もある。これが本ジャーナルに対する社会からの評価だと受け止めている。これからも本ジャーナルが多くの現場の問題解決に役立っていくことを願っている。

2019年3月